

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

足寄町立足寄小学校

5月27日に行われました本調査の結果が公表されました。北海道教育委員会教育長は、本年度の結果に「新型コロナウイルス感染症の影響等により2年ぶりとなる令和3年度全国学力・学習状況調査の本道の結果については、すべての教科で全国平均に届いていない状況にあるものの、中学校においては、2教科ともに全国の平均正答率との差が縮まるなど改善の傾向が見られます。一方、小学校においては、2教科ともに全国の平均正答率との差が広がるなどの課題が見られます。各市町村教育委員会及び学校ではこれまで、調査結果を活用した検証改善サイクルの確立、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、望ましい生活習慣の確立に向けた取組を着実に進めていただいております。更なる改善に向けて、道教委としては、小学校と中学校における連携を強化するなど、校種間の学びの連続性を踏まえた検証改善サイクルをより確かなものとして、誰一人取り残すことのない教育活動の充実に向けた一層の取組が必要であると考えています。今後も、子どもたち一人一人に確かな学力を身に付けることができるよう、コロナ禍においても学びを止めない指導体制を構築しつつ、GIGAスクール構想で整備された1人1台端末などICTを効果的に活用した授業改善をはじめ、少人数学級編成の拡大や専科教員の増員によるきめ細かな指導など、学校、家庭、地域、行政が一体となった学力向上の取組を進めていく考えです。教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。最後に、新型コロナウイルス感染症の影響下において、子どもたちの学びのために日々最善を尽くされている教職員をはじめ、関係の皆様方に対し、改めて、心から敬意を表すとともに感謝申し上げます。」とコメントを出しております。

足寄小学校では、この調査結果に基づき、全国・全道との比較において本校児童の学力の傾向や学習、生活の状況を分析し、学習指導の改善や学力向上の取組に努めてまいります。

《調査の概要》

◆調査内容

1 教科に関する調査（国語、算数）

※ A問題、B問題がなくなり、（1）（2）を一体的に問う内容となりました。

（1）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（2）知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

2 生活・学習習慣などの学習状況に関する調査

◎学習意欲や学習方法、学習環境および生活の諸側面に関する質問紙調査

◆◆ 教科に関する調査結果より ～全国・全道平均と比べると～ ◆◆

国語 ～特に「書くこと」、「読むこと」の領域に課題がみられます～

● 全国平均・全道平均より下回っています。

算数 ～「数と計算」「図形」の領域に課題がみられます～

● 全国平均・全道平均より下回っています。

■生活習慣や学習環境に関する児童質問紙調査結果

(数値は「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を選択した児童数の割合)

主なよい傾向と課題 ○:よい傾向 ●:課題	本年度数値			全道差	全国差
	足寄小	全道	全国		
○自分には、よいところがある。	89.8	72.6	76.9	17.2	12.9
○将来の夢や目標を持っている。	94.9	79.0	80.3	15.9	14.6
○人が困っているときは、進んで助ける。	94.9	88.8	88.7	6.1	6.2
○人の役に立つ人間になりたい。	97.4	95.3	95.5	2.1	1.9
●平日、家庭で一日1時間以上勉強している	20.5	58.3	62.5	-13.0	-23.5
●1日当たりの読書時間(全くしない)	38.5	27.6	24.0	-10.9	-14.5

【全国と比較して】

○学校の教育活動の中や家庭で、認められている(自己有用感)と感じている子供が多いです。

また、社会や集団生活等でルールを守ろう(社会規範)としている子供が多いです。

●家庭学習の時間は全道・全国平均と比べて少ないです。

●読書をしない子どもの数が全道・全国平均と比べて多いです。

⇒この現状を見ると、学力向上のためには、学校での取組はもちろんですが、家庭学習や読書の励行など家庭のご協力が必要になるかと思えます。

◆学力向上に向けて足寄小学校で、主として取り組んでいること◆

○基礎的・基本的な内容の確実な定着(読み・書き・計算の繰り返し学習など)

○指導方法の工夫・改善(1時間の授業の基本的な流れ、板書の工夫、ノート指導など)

○学習規律「学習の心がまえ」や約束事の徹底(えんぴつの持ち方、正しい姿勢など)

○学習支援員と連携した複数の目によるきめ細かな学習指導

○学習意欲の喚起(認める、励ます、ほめるなど)

○朝学習の充実(国語・算数のドリル、週に1度は読書)

○ICT《情報機器》の効果的な活用

○職員研修の充実(主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善)

◎さらに、「こども園、小学校、中学校との連携」を視野に、地域の教育力を活用しながら、子どもの能力向上や生活・学習習慣の改善に向けた取組を進めていきたいと考えています。

⑨ 調査の目的や結果は学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面です。